

(社) 日本東洋医学会

第 53 回 関東甲信越支部学術総会

1996年

プログラム集  
要 旨

社団法人 日本東洋医学会  
関東甲信越支部会

### 3) 肥満の東洋医学的分類

○渡辺賢治 丁 宗鐵 村主明彦 鈴木邦彦 石野尚吾  
花輪壽彦  
北里研究所東洋医学総合研究所

【目的】肥満治療の中心は食事療法であるが、類似した条件の肥満患者で同じ様に食事療法を行なっても治療効果のあがる例とあがらない例がある。これは個人の体質によるものと考えられる。東洋医学では治療を行なう際、病名に基づくのではなく、個人の体質に合わせた治療をするのを原則としている。肥満の治療に際しても、体質的に実証の肥満、虚証の肥満といった分け方をして、治療を進める。今回われわれは患者を、東洋医学的に実証、虚証両群に分け、両群間で西洋医学的指標に差があるかどうかを検討した。

【対象】北里研究所東洋医学総合研究所を肥満治療のため受診した外来患者のうち、糖尿病を除いた患者で、諸検査を施行し得た女性患者を東洋医学的見地から、実証の者5例(50.4±6.4歳：平均±SD、以下同様)、虚証の者11例(46.4±7.7歳)に分け、対象とした。

【方法】対象者に末梢血、血液化学検査、腹部CT、75gOGTT、基礎代謝、四肢末端のドップラー血流検査を施行し、両群間の比較検討を行なった。

【結果】1) 基礎代謝は実証群では $-1.7 \pm 6.4\%$ であったのに対し、虚証群では $-11.9 \pm 6.3\%$ と低かった。2) 虚証群では高血圧を有した者は1例もなかったが、実証群では5例中3例に高血圧を認めた。3) 脂肪分布に関しては、実証群では皮下脂肪が、 $412.5 \pm 137.1 \text{cm}^2$ と虚証群の $375.5 \pm 121.6 \text{cm}^2$ より高い傾向にあったのに比し、内蔵脂肪は実証群 $120.0 \pm 25.2 \text{cm}^2$ 、虚証群 $114.9 \pm 25.5 \text{cm}^2$ と差がなかった。内蔵脂肪/皮下脂肪は虚証群で $32.4 \pm 10.0\%$ で実証群の $31.4 \pm 11.1\%$ に比し高い傾向にあった。4) 虚証群の血流は実証群に比し、低下していた。

【結語】肥満患者を東洋医学的に分類することは西洋医学的にも意味のあることと考えられ、治療に際しても有用な分類法であると考えられた。